

特別公演 平松周家「社記」から学ぶ氣比神宮

時：令和2年2月2日

場所：福井県敦賀市東洋町1-1 TEL0770-22-9711

プラザ萬象 小ホール 150名

平松周家「社記」から学ぶ氣比神宮 講演会 **無料**

氣比神宮は世界最古の神社で、敦賀が政治と神職の起源であり、古事記・日本書紀にもないものが「社記」に書かれている。2680年続く世界に無いものが敦賀にあります。

山崎先生との出会いは、氣多大社元大宮司さんとの出会いで紹介され、3日間で「社記」等の多くを学び、国書であると絶賛され、多くの方々にも知っていただこうと講演会の運びとなりました。



演者：山崎和恕先生 1926年石川県羽咋市生まれ。金沢大学卒。能登の公立小中高教諭の後1989年星

陵女子短期大学助教授、金沢大学教育部英語科非常勤講師などを経て、星陵女子短期大学教授・学長

日本英語表現学会・中部地区英語教育学会会員・日本英語検定協会実用英語技能検定面接委員・環日本海国際学術交流会会員（社）日本フィットセラピー協会顧問

民俗学者の視点から、氣比神宮と氣多大社の史料に触れて神道の本来の姿や地域とのかかわりを能登の事例中心に語ります。

太平洋戦争が終わり連合軍最高司令官マッカーサーが敗戦国日本の天皇生存廃について決着をつけるために来日した時、八雲文学の愛好者だったアメリカのボナーフェローズ(1896-1973)の

「日本国民の心の拠（よ）り所」を無くしてはいけないという進言を受け入れマッカーサーは決断したといいます。それゆえ象徴天皇制の道が開かれたエピソードを紹介。

出雲大社参詣をみとめられた外国人小泉八雲の「知られざる日本の印象」における神道観も紹介。

新しい時代に対応して今から日本の神道がどう見られているかに触れます

氣比神宮「社記」に触発されて得たことを語り、「神道の未来像」を民俗学の立場からお話いたします。

時間が許せば、アメミズムの世界や「青柳物語」の樹霊とかかわる異類婚咽譚（いるいこんいんたん）などの日本の伝承は多様な生き物との「共存」を語る文学であるという小泉八雲の世界が今見直されてきている背景にも言及します。



角鹿の塩・第25代 武烈天皇・五幡村（いつはたむら）の歴史

演者：川久保忠興神主 大阪国学院卒業

演者：戦国時代から12代目平松巖3女 小松邦子・小松弘幸

何故氣比神宮は菊のご紋か？何故多くの天皇が氣比神宮にいるのか？敦賀氣比神宮は、大中臣朝臣魚取公が神職と政治を始めた起源である。高野の祠4、朝倉義景正室の一人娘「菊姫」空海の15歳の時に彫刻した仏像で出現、時、第50代桓武天皇、山車は氣比神宮大宮司平松美作守景吉が秀吉に敦賀の復興を見せるために作ったものである。更に、金ヶ崎は南北朝（後醍醐天皇）や戦国時代（織田信長・朝倉義景）の舞台であり、学校で習った歴史上の人物の舞台です。

又、氣比神宮の大鳥居に関しては、本殿は、三間社両流造という独特の形式を持ち、近世初期を代表する建築であったが戦災で焼失した。大鳥居は、康永2年(1343)の暴風で倒壊していたものを、**正保2年(1645)に佐渡から流れてきた大木を用いて再建したと伝えられている。**木造朱塗の両部鳥居で、高さ10.93m、支柱間7.45mである。笠は銅板で葺き、八角の控柱の上に笏谷石製の笠を載せ、基礎部もまた笏谷石とする。大規模な漆塗の鳥居である、小松様にご送付、ご指摘いただいた「氣比宮社記」に書かれてある内容を課内で共有し、話し合いをした結果、**ホームページの記載を「氣比宮社記」によると、大鳥居は康永2年(1343)の暴風で倒壊していたものを、正保二年に佐渡から調達した檜の木で再建されたと伝えられている。」と修正することにしました。**

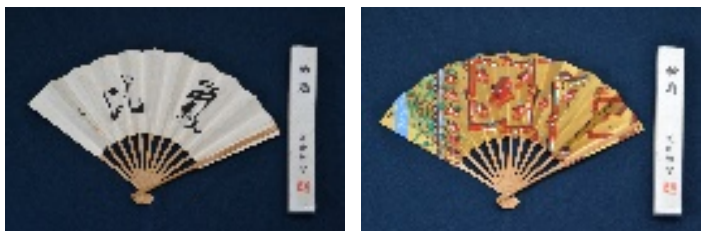
当家は2680年以上続く直系の子孫の視点でお話いたします。

主催：(有)デンタルエイド 本社 東京都目黒区東山1-11-5 TEL03-3710-3838
支店 福井県敦賀市曙町9-16 EL0770-23-7093

場所：プラザ萬象 小ホール（150名）

日時：2020年2月2日 PM：1：30～PM5:00

住所：福井県敦賀市東洋町1-1 TEL0770-22-9711



先着順100名様に記念品何れか1個差し上げます。